

安全弁（リリーフ弁）の使用方法和取り扱い

安全弁（リリーフ弁）は、通常バルブのように大きな力で弁シートを押さえつけることができず、バネの力のみで流体を閉止させ、更に設定圧力付近では、流体圧力とバネ圧力がほぼ均衡しておりますので異常に小さな力で流体を閉止させております。

上記の条件を満たすため安全弁のシートは、ひじょうにデリケートなものです。従ってゴミ・異物の噛み込み、それに伴う傷には大変弱くこのような場合新品で有っても漏れが出て、最悪の場合使用不能になってしまいます。

お取り扱いには充分ご注意願います。

一般的な安全弁の使用方法和

- 1) 機器・装置・配管等の安全弁 通常弁は作動せず閉止した状態で、機器等の異常により圧力が上昇し安全弁の設定圧力を越えた場合のみ開弁し、圧力の上昇を防ぐ。
- 2) ポンプ等のリリーフ ポンプの吐出側に取付け、使用水量が少ない場合又は全く水（油）を使用しない場合に吐出側圧力が上昇し、リリーフ弁設定圧力に達すると開弁し受水槽等へ循環させ、配管圧力の上昇を押さえ、ポンプの負荷を軽減する。
- 3) 機器・装置等の一次圧力調整 機器・装置等の内部圧力を一定に保つ。

安全弁の確実な作動を維持させるために

使用方法、弁の作動頻度等により大きな差はでてまいりますが、最低6ヶ月に一度 作動状態及びシート漏れを確認して下さい。

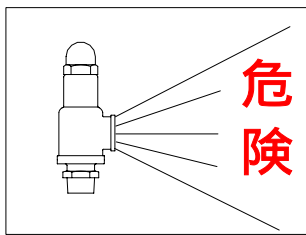
また、1年に1回程度、機器本体より取り外し水圧テストポンプ等で作動圧力、シート漏れを確認して下さい。

シート漏れ等が確認された場合、「取り扱い説明書」「メンテナンスのしかた」を参考に分解整備の程お願い致します。

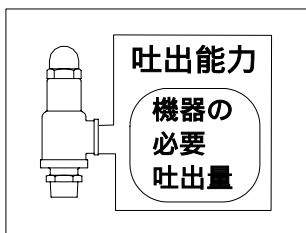
尚、メンテナンスは、経験豊富な設備業者等の専門家にご依頼下さいますようお願い申し上げます。

合資会社 金内商会

安全弁（リリーフ弁）お取り扱いのご注意

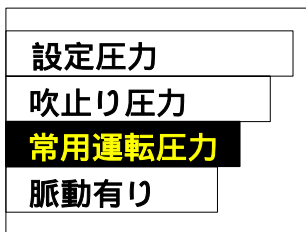


安全弁が作動しますと、流体が勢いよく吹き出しますので、二次側の配管をせず開放でお使いの場合は特にご注意ください。



安全弁の吐出能力を超える機器への取付はできません。

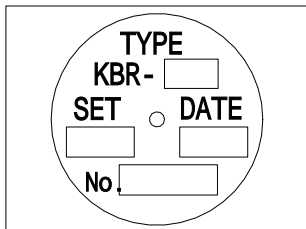
吐出能力に十分な余裕の有るサイズを選定して下さい。



装置の常用運転圧力は、安全弁吹止り圧力の90%を超えないように設定して下さい。

また、脈動の有る場合はさらに圧力差をつけて下さい。

お取付け前のご注意



安全弁（リリーフ弁）のサイズ、使用流体、セット圧力をご確認下さい。

- KBR- S 蒸気用
- KBR- W 液体用または密閉型（蒸気にも使用できます）
- KBR- A 空気用

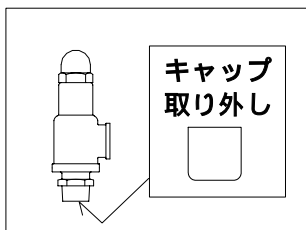
流体記号の後にSが付く場合はSUS スプリングです。



機器・装置・管内・缶体内等の清掃を行い、異物などを確実に取り除いて下さい。

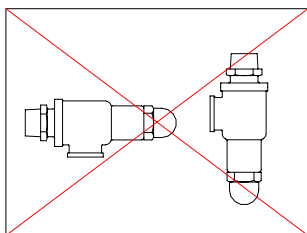
作動時に、ゴミ・スケールなど異物が入り込むと正常な動作ができません。

安全弁(リリーフ弁)のゴミ噛み等の不具合は、安全弁取付直後に最も多く発生します。



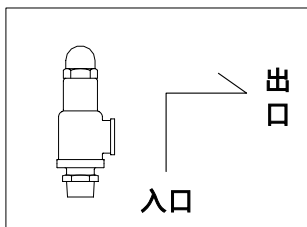
安全弁(リリーフ弁)取付の直前に、ゴミよけ用のキャップを取り外して下さい。

お取り付け時のご注意

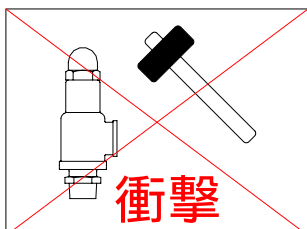


安全弁(リリーフ弁)は保守点検が容易にでき、振動等その機能が阻害される恐れのない場所に垂直に取付けて下さい。

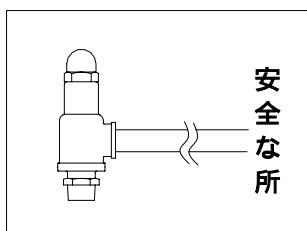
横位置、逆向きでのご使用は絶対に避けて下さい。



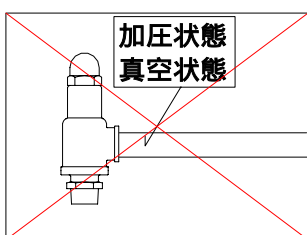
安全弁の流体の流れ方向を確認して下さい。



安全弁(リリーフ弁)に外部から衝撃を加えることはさけて下さい。

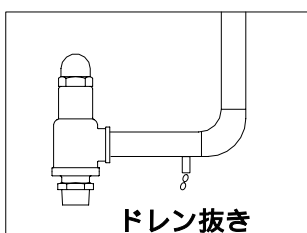


安全弁(リリーフ弁)の二次側配管は、その長さをできる限り短い距離で、かつ曲がりになるべく避け、屋外又は安全な場所へ導くようにし、これを適当に支えて安全弁に不当な応力(熱応力を含む)が発生しないようにして下さい。



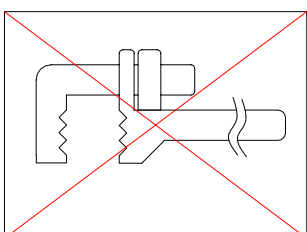
二次側配管に背圧または負圧が掛かっていないか確認して下さい。

二次側配管に背圧または負圧があると設定圧力で作動致しません。(ご注文時にご指示を頂いた場合は除きます。)



安全弁としてご使用の場合、二次側配管にドレン溜り等が発生しないよう、適当な箇所に開放のドレン抜きを取り付けて下さい。

ドレン溜りが有ると、二次側に背圧が掛り、設定圧力で作動しない場合が有ります。



安全弁(リリーフ弁)取付時には、所定の六角部にスパナ等を用いて締め付けて下さい。

パイプレンチは、絶対に使わないで下さい。弁シート等の変形の原因になり作動不良を起こす可能性が有ります。